

令和元年 11 月 15 日

各 部 ・ 室 ・ 課 長

福知山市長 大 橋 一 夫

令和 2 年度予算編成方針について（通知）

令和 2 年度予算編成方針を次のとおり定めたので通知します。

構成

- 第 1 令和 2 年度予算編成の基本的な考え方
- 第 2 本市財政の現状
  - 1 平成 30 年度決算の状況
  - 2 令和元年度及び令和 2 年度の財政見通し
- 第 3 予算編成の方針
  - 1 「新時代 福知山」に向けた取組の継続と発展
  - 2 未来を見通した施策の組立
  - 3 持続可能な財政構造構築の完成
  - 4 行政改革の推進
- 第 4 予算編成の留意点
  - 1 部長マネジメントによる事業の最適化
  - 2 総合的な政策方針に示す施策の推進
  - 3 対話と協働のまちづくり

# 令和 2 年度予算編成方針

## 第 1 令和 2 年度予算編成の基本的な考え方

令和 2 年度の国の予算は、「経済財政運営と改革の基本方針 2019」を踏まえ、引き続き「経済財政運営と改革の基本方針 2018」で示された「新経済・財政再生計画」の枠組みの下、手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組むこととされた。地方における一般財源の総額については、令和 2 年度は令和元年度の地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとはしているものの、国の予算編成過程において調整されるものであることから、今後の国の動向に注視しつつ景気の変動や各種制度の改正に左右されない堅実な財政運営が求められる。

本市においては、経常収支比率が高い現在の状況は、財源の縮小を伴う今後の人口減少社会において、福知山市の特色あるまちづくりの重大な阻害要因であり、放置すれば一気にその他の財政指標の悪化を招き、基礎的な行政活動の縮小も避けられないという潜在的なリスクである。人口の減少については、その進行に抗いつつも、避けられない課題との認識も兼ね備えて、縮小する財源に見合った政策・施策・事業の組立を行わなければならない。

とはいえ、市の施策全てが縮小志向になることも避けなければならない。事業の見直しなどにより捻出した財政余力を活用して、将来への投資や元気の出るまちづくりを適時適切に実施していくこともまた、財政健全化のあるべき姿である。

他方、科学技術は想像を絶する速さで発展を続けており、その発展は市民生活にも大きな変化をもたらしている。自治体運営においても、そうした変化を鋭敏に感じ取り、有効な施策・事業にまで昇華させることが、激化する自治体間競争を生き残るために必須であると認識すべきである。

こうした認識のもと、令和 2 年度予算編成においては、平成 29 年度に策定した財政構造健全化指針のもと、引き続き積極的な歳入確保の取り組みを進めつつ事業の選択と集中を図り、基礎的自治体として真に必要な行政サービスを、市民ニーズを的確に捉え分析しながら効果的・効率的に実施していくとともに、必要な投資を効果的に行うこととする。

そして「新時代 福知山」を合言葉とし、常に 10 年後の福知山市を構想して今取り組むべき課題を見極めながら、必要な施策を永続的に展開していくことを念頭に、令和 2 年度当初予算をその礎とするべく編成するよう次のとおり通知する。

## 第 2 本市財政の現状

### 1 平成 30 年度決算の状況

平成 30 年度の一般会計決算は実質収支で 5.3 億円の黒字決算となり、財政健全化判断比率は全て早期健全化判断比率以内となった。財政構造の硬直化を示す経常収支比率は前年比 1.2 ポイント改善し 96.5%となった。しかしながら、これは普通交付税の合併算定替特例加算の措置を受けている中での結果であり、一本算定での試算によると 98.2%であり依然として厳しい数値であることに留意する必要がある。

市債残高は減少する一方で特定目的基金は減少傾向にあり、また、高い経常収支比率に表れているように財政の弾力性は低い。こうした状況下にあって、近年の異常気象により相次ぐ災害への対応が頻発していることに鑑みれば、今後の財政運営は全く予断を許さない状況であるとの危機意識を、職員全員が我がこととして認識することが必要不可欠である。

## 2 令和元年度及び令和 2 年度の財政見通し

令和元年度は、歳入においては市税で個人市民税、固定資産税の上ぶれを予想する一方で、臨時財政対策債発行可能額は予算額を下回る算定結果となった。また、幼児教育・保育無償化に伴う臨時特例交付金の確定的な見通しが立てられないなど、一般財源の確保について予断を許さない状況である。歳出においては、幸いにして現在のところ災害による緊急の財政出動は発生していないものの、経常経費の執行は予算で企図した通りの結果となるかどうかは楽観を許さない。

令和 2 年度は、国の概算要求において地方交付税総額が 4.0%の増となっているが、これは幼児教育・保育の無償化など本市でも見込まれる財政需要の増加を反映したにすぎず、最終年度を迎えた普通交付税の合併算定替特例加算の縮減と、令和元年 10 月 1 日に実施された消費税率の引き上げの通年での影響などにより、市財政にとってより厳しい状況が想定されている。

## 第 3 予算編成の方針

### 1 「新時代 福知山」に向けた取組の継続と発展

「新時代 福知山」に向けて取り組んできた、新たな観光戦略、産業の支援、医療・介護・福祉機能の充実、防災力の強化、教育環境の整備、経営力の高い市政の実現などについては、その真の効果の発現に向けて取組を継続することを基本とし、必要な検証を踏まえながら見直し・発展させていくこととする。

そのためには、社会環境・経済情勢の変化を鋭敏に捉えつつ、日進月歩の科学技術や社会システムを貪欲に取り入れ、10 年後の福知山市のあるべき姿を更新し続けるという意志に基づいて予算を編成することが重要である。

## 2 未来を見通した施策の組立

### (1) 自治体 SDGs 理念の推進

中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方自治体による持続可能な開発目標＝SDGs の達成に向けた取組を推進していくことは、気候変動による自然災害リスクの増大を自らの身をもって知っている本市にとっては、率先して取り組むべき課題である。また、SDGs を共通言語として、地域の課題解決に取り組むステークホルダーの連携を促進し、官民連携による取組の創出を図ることが、ひいては一層の地域創生につながるものと認識し、施策全般において SDGs の理念を活用していくこと。

### (2) Society5.0 社会への先取り

「Society5.0」と称される、サイバー空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を目指す国の動きと連動し、本市においても「スマートシティ福知山」の実現に向けた取組を鋭意進めるとともに、将来の「スーパーシティ福知山」も視野に入れた検討を行なうこと。その中では、本市で令和 2 年 4 月に設置予定の福知山公立大学情報学部も十分に活用していくこと。

### (3) シティプロモーションの強化

シティプロモーションは、短期的には福知山市の発信力の強化と魅力の発見・創出を、中長期的には関係人口や関係企業の増加、新たな産業の創出、地域力の向上

を目標とするものであり、未来への投資として必要な取組を継続・強化すること。特に、2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放送される令和2年度を千載一遇のチャンスと捉え、各種メディアと連携して本市の歴史と魅力を全国及び市民に効果的に発信すること。

#### **(4) 民間企業や大学等との連携**

民間企業や大学等の専門的な見地による意見を幅広く収集し、行政の偏見によらない政策形成に努めるとともに、現代的で多様化する市民ニーズに対応するために、各分野において先進的で専門的な研究・取組を進める民間企業や大学等との連携を積極的に検討し、既存の事業フレームにこだわることなくより効果的な事業展開を図ること。特に本市には、福知山公立大学と京都工芸繊維大学福知山キャンパスの2つの高等教育機関が集積する「知の拠点」が存在するところであり、その連携に優位性が認められる場合には、行政の各分野において協力関係を構築しながら、ともに福知山市の未来を構想するパートナーとして政策形成にあたること。

### **3 持続可能な財政構造構築の完成**

普通交付税の合併特例加算が令和2年度を最後に終了することを念頭に、第6次行政改革及び福知山市財政構造健全化指針のもと縮小する財源に相応する財政構造の構築を進めてきた。臨時財政対策債と併せて単年度で最大19.6億円の配分があった合併特例加算が段階的にゼロに向かうなかで、健全な財政運営の実現に向けて進めてきた取組みだが、目下ゴール目前で最後の難所に差し掛かっている。平成28年度から4年間をかけて行った全事業の棚卸しにより全ての事業を検証し、効率的・効果的なものにつくり変えようとしている最中であって、いち早く発現させることができたその成果と不断の見直しにより最後の壁を乗り越え、持続可能な財政構造の完成を図ることが令和2年度の最も重要な課題の一つである。

### **4 行政改革の推進**

#### **(1) 第6次行政改革の達成**

平成28年度から実施する第6次行政改革は、令和2年度が計画最終年度である。持続可能な財政構造の実現における前提として、各取組項目の実行は必須であり、より大きな効果を求め更なる取組を進めるべきものである。計画の不履行が市の財政運営を悪化させる原因になるものと肝に銘じ、その実行及び目標の達成に最大限の努力を払うこと。

#### **(2) 福知山市財政構造健全化指針に基づく取組の徹底**

厳しい財政状況を受け、平成29年度に第6次行政改革を補完するため策定した福知山市財政構造健全化指針については、財政健全化のための基本的な指針として引き続き遵守・徹底するものとする。具体的には、歳入を増やす取組の強化・多様化、補助事業のあり方見直し、指定管理施設の管理・運営及び外郭団体のあり方の見直し、時代のニーズを把握した事業の大胆な組み替え、民間資金の活用検討などを進めるものであること。

#### **(3) 公共施設マネジメントの継続**

令和2年度からを計画期間とし、現在策定作業中である福知山市公共施設マネジメント基本計画後期実施計画に従い、公共施設マネジメントを着実に進めるとともに、個別施設計画を策定し有利な財源を活用することにも意を用いた事業実施に努めること。

#### (4) 働き方改革の実現

平成 30 年 7 月に公布された働き方改革関連法により、市役所も例外なく長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保等のための措置を講ずる必要があり、その実践が魅力的な職場環境を創出し、職員の能力を十分に発揮させることにつながるものである。そのためには、不必要な事務が残っていないかを再点検しながら業務の I T 化や R P A の導入等を積極的に進めるとともに、手順の見直し等による効率化を行い、事務総量の削減に努めること。

#### (5) 全事業棚卸しの結果の反映

平成 28 年度から実施してきた全事業の棚卸しについては、令和元年度までに全 1,123 事業が完了したところであり、全ての事業においてこれまでの指摘や見直しの視点を踏まえて事業を組み立て、要求することが大原則である。各事業について何のために行うのか実施目的を明確にし、達成すべきゴールを定量的にいつ・どのような状態になっているか定めた上で、そのために最も効率的で効果的な実施手法とすること。

### 第 4 予算編成の留意点

#### 1 部長マネジメントによる事業の最適化

予算編成においては、部長のリーダーシップのもと、課題解決、目標達成等のために限られた人的資源及び財源を有効に活用・配分し、部としての戦略が明確となる効果的な事業計画の立案を図ること。

組織戦略の検討に当たっては、中長期的な視点及び未来から現在を見返すバックキャスティングの視点から、「組織の目指す姿」「財源も含めた中期的な計画と目標の設定」「施策の優先性」「事業の選択と集中」の 4 点を踏まえ検討するものとする。

#### 2 総合的な政策方針に示す施策の推進

##### (1) 「未来創造 福知山」に示す各施策の責任ある実行

福知山市の総合的な市政運営の指針である「未来創造 福知山」の基本計画において、そこに位置付けられた施策・事業については、これまで計画的に実行し、必要に応じて方向修正をするなどしてきたが、現在の基本計画期間の最終年度を迎える令和 2 年度はそれらを総括する年度となる。策定時の理念とその後の諸情勢の変化への適応を融合させ、今の、そして未来の福知山市にとって必要不可欠な施策・事業として責任のある実行に努めること。

##### (2) 地域創生の取組の継続

平成 27 年度に策定した「まち・ひと・しごと・あんしん総合戦略」については、継続して取組を進めているところであり、令和 3 年度からの次期計画の策定作業を行っているところである。福知山市にとって地域創生の取組は、将来を見通す上で重要な役割を担っており、時代の潮流を見極めながら次期計画につながる事業展開を図ること。

##### (3) 国土強靱化施策の推進

現在、国土強靱化法の規定に基づき国土強靱化地域計画として「福知山市国土強靱化地域計画」の策定作業を進めているところである。近年の度重なる大雨災害を経験する本市にとって、計画の策定前から災害に強いまちづくりに尽力しているが、

こうした全国的な機運の隆盛を後押しとして、これまでの災害に強いまちづくりを加速化・強化していくこと。

### **3 対話と協働のまちづくり**

政策形成過程などの市政情報を積極的に発信し、透明性が高い行政を実現しつつ、自治基本条例の理念のもと、市民との対話と協働による地域経営を行っていくこと。また、市民や近隣他市や民間と連携することで、本市あるいは行政単独では解決不可能な課題に対応できる可能性があることから、市民や団体との積極的な連携強化を図ること。